

令和2年度 京丹波町立和知中学校【学校評価書】

評価項目	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題		
			自己			関係者 評価	自己 評価	関係者 評価
			前期	後期	年間			
学習指導	①京丹波町メソッドに基づいた授業展開を徹底する。 ②言語活動に注力する。 ③家庭学習の習慣化を図る。	○「めあて・学習活動・振り返り」の授業展開を全教員で徹底する。 ○言語活動に注力する。（書く・読み合う・発表する等）また、A.L型授業に積極的に取り組む。 ○自主学习ノート（家庭学習）の取組を充実させる。 ○単元テストの導入で学習内容の定着を確実にし、指導と評価の一体化をより明確にする。						
人権教育	差別・いじめを許さない教育を推進するとともに多様性を尊重する態度を育む。	○生徒会活動・学級活動等を通して、自他理解を深め、自己肯定感を向上させ、差別・いじめを生まない集団づくりに取り組む。（QUの効果的活用） ○系統的な人権学習課題を設定する。 ○教職員の人権研修の充実を図る。						
道徳教育	規範意識・思いやりの心・豊かな人間性を育み、道徳的実践力を育成する。	○全校体制で道徳教育（授業等）に取り組むとともに、日々、道徳教育を意識した指導を行う。 ○生徒を伸ばす適切な評価の研究・実践を進める。						
特別支援教育	①個に応じた指導・支援を行う。 ②理解教育を推進する。 ③生徒の自立と社会性の育成を目指す。	○特別な支援を要する生徒の発達課題や特性を把握し、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づく指導・支援を充実させる。 ○ユニバーサルデザイン授業、インクルーシブ教育の視点を大切にした指導を実践する。						
教育相談	相談活動を充実させ、課題解決の意欲と力を育む。	○「日々の生徒の記録」に生徒の状況を記録し、共通理解を図る。 ○関係機関とも連携し、課題の早期対応に努める。						
生徒指導	人権尊重を基盤に生徒理解を深め、望ましい集団づくりと豊かな人格形成を促す。	○社会規範（正しい価値観・判断力）と生活規律を学ばせ、生徒の人格的な自立を促す。 ○認め合い、高め合う生徒集団づくりを目指す。 ○生徒に寄り添い、共に歩み育てる共感的指導を行う。						
特別活動	主体的な生徒会活動を軸に、生徒の自己肯定感を育む。	○各会議を開催したり、縦割グループで活動したり、多くの生徒が意欲的に取り組める機会を作る。 ○学校の良さや取組を地域に積極的に発信する。						
環境教育	自然環境問題・環境美化に関心をもち、実践力を育む。	○各教科・領域を通して環境問題や環境保全（自然や資源）について考えさせ、実践できる態度を育む。 ○教室環境の整備・清掃に積極的に取り組ませる。						

福祉教育	体験的活動を通して、主体的に福祉に関わる態度を育成する。	○長老苑との交流、わち子どもの集いへの参加、地域清掃活動等を通して福祉への理解と関心を深めさせる。							
国際理解	人権尊重の心、コミュニケーション能力を培う。	○ALTとの積極的な交流、各授業での国際理解意識向上に努める。 ○和知の文化を英語で説明する時間を設ける。 ○人前で発表する機会を設定し、コミュニケーション力、表現力を鍛える。							
キャリア教育	①目的と展望を持って課題解決する力を育む。 ②進路実現・自己実現を目指す生徒を育てる。	○キャリアパスポートを効果的に活用する。 ○生徒自らが将来の生き方や勤労観・職業観についてビジョンを描く力をつけさせる。 ○全ての生徒の進路保障を実現する。							
総合的な学習	学校・地域の特色を活かした学びを通し、思考力・判断力・表現力とともに、自信と誇りを育む。	○和知人形浄瑠璃や和知太鼓の学習を通し、和知の歴史・文化・産業・社会・人々について探究的に学ばせる。 ○様々な表現活動を通し、思考力判断力も育む。							
小中連携	9年間を見通した小中連携の在り方について研究・実践する。	○総合の時間を軸に小中の連携を強化する。 ○授業改善、学力向上にともに取り組む。							
健康安全	健康安全の大切さを認識し、心身の健康保持増進に対して、適切に実践できる力を育成する。	○健康診断の有効活用、歯科指導の充実、体力面の課題解決の講習等に取り組む。 ○発達段階に応じた諸課題の指導を適切に行う。 ○避難訓練・救命講習、安全点検を実施する。							
食に関する教育	食生活のマナーを身につけ、食育を推進する。	○給食を通してマナーや望ましい食習慣、食の重要性を学ばせる。							
図書館教育	全校あげて読書活動の充実を図り、「ことばの力」育成に取り組む。	○年間を通して朝読書に取り組みせる。 ○図書委員会活動等で読書啓発活動を推進する。 ○学校図書館の環境整備を進める。							
情報教育	①情報モラルを身につけさせるとともに、情報活用力を育む。 ②ICT活用能力を育成する。	○道徳教育や生指・人権教育部と連携し、系統的に情報モラルの指導を行う。 ○生徒教師ともに授業での積極的なICT活用に取り組む。							
教職員の働き方	超過勤務の短縮と業務の見直しに取り組む。	○出退勤システムを有効活用し、タイムマネジメント力を向上させる。 ○校務分掌のスリム化について検討する。							

A：十分満足できる B：満足できる C：一部改善が必要 D：改善が必要